

1. 地雷による死者数、1 ～ 6 月は81 % 増

内戦の爪痕が残るカンボジアで、地雷による死者数が増えている。カンボジア地雷対策庁(CMAA)によると、1～6月は前年同期比81.8%増の20人だった。一方、負傷者数は47.3%減の29人だった。ヌオン・モノケトヤ副長官(社会経済計画・データベース管理担当)によると、子どもの被爆も多く、死者数は前年同期の3人から7人に増えた。死傷者計49人のうち、北西部が全体の71%を占めたことも分かった。非政府組織(NGO)「ハロ・トラスト」のマシュー・ハベル地域責任者は「タイ国境近くで、貧困層が土地を求めて地雷が埋まっている地域に移住していることが死者数増加の一因」と話す。国境付近には、ボル・ポト時代に領土を守る目的で多くの地雷が埋設され、現在に至るも一部が回収されていない。

2. 日本のカンボジア投資11倍 1～6月275億円、半期で過去最大

日本企業によるカンボジアへの投資が拡大している。カンボジア開発評議会(CDC)によると、1～6月の投資認可額は2億5,972万米ドル(約275億7,000万円)となり、前年同期から約11倍に拡大。半期としては過去最大となった。堅調な経済成長を追い風に、東南アジア諸国連合(ASEAN)内での新たな投資先として認知度が高まっている。

3. シハヌークビルの縫製工場で、未払い給与を求めデモ

6/21、シハヌークビルの経済特区にあるRCI縫製工場では、およそ600人の労働者がデモを行った。労働者たちは、「オーナーが姿を消し生産がストップしたため、5月からの給料が支払われていない」と主張している。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic UnionのスタッフAn Ramaさんは、「先月、なんの発表もないまま工場が閉鎖されてしまいました。労働者たちは州の労務局に行って、5月分の未払い給与に関して解決してくれるように頼みました」と話す。州労務局のYoy Khemaraさんは、「解決策を探っているところですので、労働者の皆さんは落ち着いて待っていてください」と話した。しかし、デモに参加している一人、労働者のSoumf Chanthaさんは、「家賃の支払いがあるので、いますぐ賃金を支払ってほしいです。工場はこの4月から、ずいぶん生産量を減らしていました。もしこのまま閉鎖するのであれば、退職金ももらいます」と話した。

4. コンボンスプーの縫製工場で、不当解雇反対デモ

6/21、コンボンスプー州のDali International縫製工場で働く100人は、3人の組合リーダーと2人の労働者を解雇したことに対して反対のデモ活動を行った。Cambodian Textile & Garment Workers' FederationのSoy Chanthousさんは「5人は、労働契約の契約期間中にもかかわらず、手当もなしに解雇されました。これは法に反しています。労働者たちが怒ってデモを行うのは当たり前です」と話している。

5. カンボット州の縫製工場で400人以上のストライキ発生

6/28、カンボット州にある韓国系の縫製工場Cambo TDG社では、400人以上の労働者がデモを行い、解雇された21人の復職を求めた。Cambodian Textile & Garment Workers' FederationのSithy Netさんによると、21人(うち19人は女性)は先週木曜日、契約期間が終わり解雇になったという。彼は「彼女たちは全員2年以上働いていますが、3ヶ月契約の更新の繰り返しでした」と話す。「会社は、受注量が減ってきたので労働者数を減らさなくてはならなくなった、と当初言っていました。それなのに、いま、新しく求人募集を行っています。解雇になった人たちの方が経験豊富なのに、どうして入れ替える必要があるのでしょうか」と話す。会社は、21人に対して最終となる給料を支払い終えた。しかし何人かは、法で定められているはずのその他の手当を受け取っていないという。労働者のひとりMai Laiさんによると、21人は以前から、他の労働者が会社要求を訴える際にサポート的な役割をしていたという。

6. プノンペンの靴工場で、労使紛争妥結

6/22、300人の労働者が3日間ストライキをした後、プノンペンのSky Nice International靴工場は、要求項目の大半を満たすことに同意した。労働者たちの一番の要求は3人の同僚を復職させることだった。会社代表は、Sky Nice工場は、すでに2人の復職には同意しており、今現在3人目についても前向きに考えているという。労働者たちは、今日から仕事に戻る予定だ。

7. 労働者が地裁前で抗議、経営者の拘束訴え

7/25、労働者 100 人近くがプノンペン地方裁判所の前に集結し、経営者の拘束などを要求した。裁判所前に集まったのは、首都プノンペンのミンチイ地区で操業する衣料品工場の従業員。中国系の経営者は6月分の給料を支払わずに姿を消したことから、裁判所に対して経営者の身柄拘束を求めるため、22 日に続いて2回目となる抗議運動の展開を決めた。従業員らはまた、工場の機械類処分費を未払い分給料に充当するため、裁判所に対してこれら機器を保全する命令の発出も求めている。従業員らはこれら機械類などが勝手に売却されないよう、今月初めから工場に宿泊しているという。一方、北西部バットアン州で履物を製造するエアロソフト・サミット・フットウェアでは、工場労働者らが職場復帰を求めて抗議活動を展開している。27 日には州の地裁までデモ行進を実施し、問題が解決しない場合はフン・セン首相に訴える考えだ。同社の経営陣は、従業員が労働条件の改善を訴えた後、労働者を職場から排除。従業員の復帰を認めた州知事や仲裁機関の命令を無視している状況が続いている。

8. 2016年度、労働者を巻き込む交通事故、減少

労務省の National Social Security Fund (NSSF) の発表によると、労働者を巻き込んだ交通事故は、2016 年6月時点で、前年と比べ 28 パーセント減少したという。前年の同時期の事故件数が 3122 件、死亡・負傷者数が 3427 人だったのに比べ、今年の事故件数は 2259 件、死亡・負傷者は 2849 人だった。死亡者の数も 70 人から 42 人と 40 パーセント減少、重傷者は 412 人で 20 パーセント減少、軽傷者は 2395 人で 16 パーセント減少である。事故車両としてはバイクがもっとも多く、1591 件の事故で、29 人が死亡している。次に多いのが車で 371 件だ。その他の交通手段、トラックなどは、297 件で 6 人の死亡。しかしプノンペンポストは、少なくとも 9 人が死亡した、と過去の記事で報告している。事故の半数はスピードの出し過ぎで、また、飲酒運転は 12 パーセントだ。Road Safety Institute の Ear Institute の Ear Chariya さんは、「もしこの統計が本当なら、新たな交通規制が有効に働いているということでしょう。しかし死亡者の数はまだ多く、今後も交通ルールに関する教育を広め、法をしっかりとしたものにしていきたい」と話した。

9. ベトナムの新国家主席、カンボジアを公式訪問

6/16、ベトナムの新国家主席とその夫人がカンボジアに初の公式訪問をし、フンセン首相、シハンモニ国王らと面会した。ベトナムのチャン・ダイ・クアン公安大臣は 4 月に新国家主席に選出され、カンボジアの前にラオスも立ち寄り、カンボジアには 2 日間の滞在となった。ピースパレスでミーティングが行われた後、政府のスポークスマン Eang Sophalleth さんは記者たちに、「フンセン首相は、救助作業の分野での協力、国境周辺の水源利用の協力、また、ベトナムでのヘルスケアが安価で受けられるように、要請していました」と話した。クアン国家主席は、ベトナムの公安省にいた頃にすでにカンボジア政府と仕事をした経験がある。

10. 送金の文化が、経済格差を助長か

プノンペンの人口は 21 世紀最初の 10 年で、およそ 2 倍に増加している。原因の大部分は、田舎の家族にお金を送るため、首都での仕事を探す人が増えているためだ。都市から地方への送金はカンボジアでは一般的な文化で、地方の発展に役立っていると言われているが、先週、「実際にはカンボジアの経済格差を助長する一因になっている」という研究結果が発表された。

移住の研究を行っている Laurie Parsons 博士は、『Mobile inequality』という論文を発表。彼は、プノンペンで仕事をしている移住者たちにとって、送金がどれだけ経済的な負担になっているか、という点を研究した。彼によれば、生まれた家庭が貧しければ貧しいほど現実のプノンペンの状況をよく知らず、実家に送金できる金額を実際より多く考えている傾向にあるという。50 人の移住労働者を調査し、月額 131 ドルを稼いでいる人の場合の送金額は月 42 ドル程度が一般的であることがわかった。しかし家族からは、もっとたくさん送ってくれ、とプレッシャーをかけられている場合が多いという。「毎月 70 ドル〜80 ドルを仕送りしています。でも、両親にはこれでは少ないと言われます」と、インタビューに答えた一人は話す。

稼ぎの 10 パーセント以上を毎月故郷に送っている人でも、期待していたほどの稼ぎはできていないのが現状だという。カンボジアでは、お金の送金サービスは大きなビジネスだ。送金サービスを提供している大企業 Wing 社マーケティング部の Franchette Cardona さんは「うちの会社だけで、プノンペンから地方へ、毎年 20 億ドルもの送金をしています」と話した。社会学者の Chivoin Peou さんは、「送金が都市の経済格差を助長しているかといえばわかりませんが、都市に住んでいる人たちでも、確かに生活は二極化しています。田舎の家族が借金に追われて、ほぼ強制的にプノンペンで働かざるを得ない人。こういった人々の稼ぎは全て家族の借金返済にまわされるので、将来への希望など抱けません。一方、借金返済の心配がなく、自分のお金で何をしようが自由な人もいます」と話した。

11. 農業人口が低下、対策が必要

カンボジア政府は、田舎で農業を営む世帯の貧困を改善し、農業の労働力低下をストップさせる政策を模索している。Food Agriculture Organisation が催した4年間にわたるワークショップの終了を伝える場で、専門家たちは、政府がもしこの問題に対して有効な政策を出すことができれば、農業の分野だけでなく、国全体の経済にとって良い影響を生む、と口をそろえた。例えば、農業NGOのCeLAgridにアドバイザーとして就任しているKhieu Borinさんは「カンボジアでは、牛肉の需要は2020年までに9.3パーセント伸びると予想されています。牛肉の輸入国であるベトナムには、これ以上牛を飼う土地はありませんが、カンボジアにはあります。現在、カンボジアでは、牛を育てているのは小さな農牧地だけで、大きな会社が行っているものはありません。需要が伸びてきた今、牧畜について考える良い機会だと思います」と話す。「しかし、家畜に餌をやったり頭数を増やしたり、健康状態を管理したりすることについて、まずやり方を決めなくてはなりません。現状、カンボジアでは獣医学がそれほど進んでおらず、牛自体の値段もとても高い」とBorinさんは話す。

カンボジアで消費されている野菜のおよそ半分は輸入しているものだとNuppun Institute for Economic Researchのディレクター Pisey Khinさんは話す。彼は、「国内での生産量をあげることが当分の優先事項となるでしょう」と話した。しかしこのチャンスを掴むには、農夫たちが必要な知識を学び、同時に灌漑インフラを整えなくてはならない。農林水産省のSrey Vuthyさんは、「私たちは、農業人口の低下を危惧しています。2009年、農業人口は全体の57.6パーセントでした。しかし、2014年の調べでは45.3パーセントに下がっていました。田舎の雇用を増やす対策を考えないといけません」と話した。

12. 縫製労働者を巻き込む交通事故

7/01、コンポンスプー州の国道44号線でトラックが横転し、19人の縫製工場労働者が怪我をした。トラックは、Samrong Tong 地区で猛スピードをだして走行していたが途中でタイヤがパンクし横転したと、州の労務局に勤めるChoek Borithさんは話す。トラックには全部で28人が乗っていたという。Borithさんは、「死人はでませんでした。病院での治療費については社会保障基金が負担します。こういう事故が起こらないように、ドライバーたちに講習を受けさせなくてはなりません。でも、彼らは個人のビジネスとして好き勝手にやっていますから、すべてのドライバーを管理するのはとても難しいのです」と話した。

コンポンスプーでは、1月にも70人が怪我する交通事故があり、4月には5人が死亡する事故もあった。今年だけでもう3度目である。今回、トラックに乗車していた労働者のChan Sreyさんは、「タイヤの、大きな破裂音が聞こえました。みんなパニック状態でしたが、幸い、道路には他の車がいませんでした」と話した。また「縫製工場労働者が利用する通勤トラックが非常に危険なものであるという認識は広まっていますが、画期的な策は何も取れていません。安全が証明されていないからといってそういうトラックをすべて禁止してしまえば、労働者たちが仕事に行けなくなります」とNGO団体Solidarity CenterのWilliam Conklin氏は話す。「短期的な策と、長期的な策の両方が必要です。昨日のような事故の場合、簡単な安全確認をただけでも違ったはずですよ」と話した。

13. 労働者10人、失神

プノンペンのMeanchey地区にある工場では、10人の労働者が意識を失い倒れる事態があった。Federation Union for Cambodian WorkersのSak Srey Nakさんは、「どうして彼女たちが倒れたのか、理由ははっきりしていません。でもそのうちの一人は、友人が気絶したのをみて、自分も倒れてしまった、と話しています。8人は病院に運ばれて、2人は帰宅しました」と話した。

14. Global Apparel 社での仲裁審理が終了

仲裁審議会は今週、マレーシア系の縫製工場Global Apparel社で起こっている争いに関する訴えを棄却した。理由は、訴えを起こしている労働者たちが、ストライキを中断するように、という審議会の命令をきかなかったからだ。Collective Union of Movement of WorkersのSoth Chetさんは昨日、「労働者の方々がかわいそうだと思います。誰も、彼女たちの声を聞かなくなってしまう」と話した。工場は10月に閉鎖予定で、それに伴い、約600人が今月解雇、さらに約1200人が来月解雇になる。仲裁審議会は、『ストライキをやめなさいという命令に労働者たちは従わなかった』と公式に、審議終了の理由を発表。また、工場側も、「これ以上争いをする必要はない。雇用期間分は、契約に則ってきちんと給与を支払います」と話す。人権団体CentralのJoel Preston氏は、「こういった流れは一般的ですが、労働者たちが気にいらなければ再度訴えることもできます。ただし、審議の期間中は通常ストライキをしてはいけません」と話した。

15. 労働者が閉鎖された工場を徹夜で監視

7/04、プノンペンのMeanchey地区にある縫製工場で働く約200人が、オーナーが工場の機械を売ってしまうので

はないかという心配から、徹夜で工場にとどまり見張りをした。自由労働組合の Yung Leap さんは、「Chung Fai 工場は、オーナーが香港人で、ニット素材の靴下やセーターを作っています。しかしオーナーの行方がこの 1 ヶ月分からなくなっており、6 月分の給料もまだ支払っていません。金曜日、労働者たちは、輸送業社がきて会社の備品を持っていくのを目撃したそうです。それで、このまま全て持って行って、閉鎖してしまうのでは、と心配になっているのです」と話す。縫製工場のオーナーが賃金を払わないまま行方をくらますというケースはよくある。その場合、労働者の賃金を賄うため、会社に残されている備品を政府が全て売りさばいて、売れたお金で処理することも多い。工場の管理部門にいる Chea Socheat さんは、「オーナーと最後に話した時、会社は倒産する、という風なことを言っていました。でも、公式には何も発表されていません。彼とはずっと連絡がとれない状態です。最近を受注量が少なく、生産量が減っていました」と話した。労働者代表の Choun Kiri さんは、「一番長い人で、18 年間ここに勤めています。退職であれば、それなりの手当てがつくはずです。先週、バンが一台工場にきて、エアコンやプリンターなどをどこかに運んで行くのを見かけました。オーナーがマシンを回収しようとしているのかもしれませんが、たぶん工場はもう潰れたのでしょうが、私たちの給与になるものを残してもらわないと困るので、こうして見張っています」と話した。

16. カンボットのストライキで 3 人が逮捕

7/07、カンボット州の縫製工場でストライキを誘発したとして、3 人の労働組合員が逮捕された。警察の話によると、拘留されているのは Cambodian Labor Union Federation の Yon Sambo 氏、Free Union Federation の Meas Tom 氏、Cambodian Worker Union Federation の Sok Den 氏の 3 人で、裁判に出廷するという。工場でのストライキが始まって現在 2 週間が経過している。「この 3 人が、他の労働者たちにストライキを命令したとして、会社側は正式に訴状を出しています。証拠はまだありませんが、会社の生産量が激減してしまったのは真実のようです」とカンボット州警察の Makthurith さんは話した。韓国人オーナーが経営する Cambo TDG 工場では、短期雇用で契約していた労働者 21 人を会社が解雇したのを原因に、6 月 24 日から約 400 人の労働者がストライキをしている状態だ。会社は 30 日に、19 人を復職させ歩み寄る態度を示したが、残り 2 人は復職を認めなかったため、労働者の怒りはおさまらなかった。

Cambodian Labour Union Federation の Din Sam Ath さんによると、3 人は、レストランで食事をしているところを逮捕されたという。ストライキが、敷地を出入りするトラックや車を妨害し始めたため、会社側は耐えられなくなったようだ。「労働者たちも怒っています。もう 2 週間、会社が解決策を提示しないままですから。だから車両を妨害したのでしょう。別に、組合が命令したことではありません。それなのに、私のチームが 1 人と、他の組合の 2 人が逮捕されてしまいました」と Sam Ath さんは話した。Cambodian Textile & Garment Workers' Federation の Sithy Net さんは、「ストライキはいまも続いています。多くの警察官が張り付いて、彼らの行動を監視しています。労働者のうち 4 人が代表となって、会社側との直接交渉を求めてきています」と話した。労働者のひとり Ouk Saran さんは、「車を妨害したのは、いくらストライキをしても会社側が取り合ってくれないからです。それに、もしここにある商品などをプノンペンの別の工場に持って行かれてしまったら、ここにはもう私たちの仕事がなくなってしまいます」と話した。

17. 政治評論家が殺害。政府に疑惑の声

著名な政治評論家の Kem Lay さん 45 歳が、日曜の朝にプノンペン市内のカルテックスガソリンスタンドにおいて銃撃され死亡した。Lay さんは朝の 9 時頃、ガソリンスタンドにあるカフェにいたところ、拳銃で近距離から 2 発撃たれて死亡。容疑者は逮捕されており、Choub Samlab(英語で、「殺しに来た」という意味)と名乗り、お金のことでめめた、と話した。現場に駆けつけた警官によると、1 発は左肩の下側、心臓のそばにあたり、もう一発は頭部左側にあたっていたという。昨日の記者会見で市の Choun Sovan 警部は、「現場近くにいた警官たちが犯人を追い、ソティアロス通りにあるパゴダの近くで捕えました」と述べている。「その後の調査や現場の状況などで、彼が Kem Lay さんを殺した張本人だと、確定しました。彼以外にこの事件に関わっている人物がいるか、現在さらなる調査中です。Choub Samlab というのは、本当の名前じゃないでしょう」と Sovan 警部は話した。

“Samlab”容疑者は、38 歳バンテアイミエンチェイの出身、タイの農家で働いており、Lay さんにお金を貸していた、と警察に話している。「お金を貸してもう 1 年です。でも返してくれないし、嘘をつかれました。銃はタイからもってきたものです」と話す。どうして被害者と知り合ったのか、という質問に対しては、「昔から知っていました。困っている人を助けたいからお金を貸してくれ、と言われて貸しましたが、彼が人を助けているようには思えませんでした。貸した額は 3000 ドルだ」と話している。しかし、Lay さんの妻や兄弟は昨日、「Lay さんに借金などなかった」、と主張している。しかし、最近自分の身の安全をやけに気にかけていたという。妻の Bor Rachana さんは昨日の葬式場で、「夫とは長い間一緒にいますが、彼は 100 リエルたりとも、人から借りたりしません」と話した。Rachana さんは 5 人目の子供を妊娠している。Lay さんは毎朝カルテックスでコーヒーを買うのが日課で、事件当日 Rachana さんも一緒に車で出かけていたが、先にスーパーで車から降りていたという。

「これは、個人間の問題ではないと思います。私にはうまく話せませんが、政治的な問題です。夫は良い人なのに、本当に許せません」と話した。環境保護団体 Mother Nature に所属する Chum Hour さんは、先週の土曜、Ley さんの双子の兄弟や別の活動家とともに Ley さんと会っていたが、彼が身の危険を感じているように見えた、と話す。「Ley さんは、双子の兄弟に、”もしどちらかが刑務所にいくことになれば、一緒に行こう。もしどちらかが殺されるようなことがあれば、一緒に死のう”、と話していました。彼は私がトイレに行こうとした時も、気をつけろ、と言ったのです」と話す。また、Monk Network for Social Justice の設立者 Bun Buntenh さんも、最近 Ley さんと会っていた一人だ。「Ley さんは、自分の政治的な活動のために、身に危険が迫っている、と言っていました。近いうちに、自分たちの中の誰かが殺される、と話していました。ヨーロッパにいくチケットを予約していたと思います」と話した。

Ley さんの甥の Ngun David さんは、「先週の木曜日、叔父は、殺されるかもしれないからフランスにいく、と言っていました。祖父に対して、”あなたは年寄りだけど、きっと僕よりは長生きするよ”、とも話していました」と話す。Ley さんの遺体は事件後5時間その場にあったため、多くの群衆が現場に集まり、政府へ怒り声を上げる者もいた。「政府が彼を殺した」、と大声で連呼する声が響いたという。

フン・セン首相は Facebook 上で、”残忍で容赦ない犯行”として、この事件に触れた。カンボジア国民党と内務省も、それぞれ事件を非難するメッセージを公開。また、野党のサムランシー党首は Facebook で、”国家が糸を引いた殺人です。彼は政治的な脅威でした。誰かが、彼を殺害するために人を雇ったのです”、と書き込んだ。また、サムランシー党首は、過去に貿易組合の Chea Vichea 氏や、環境活動家 Chut Wutty 氏が殺害された事件にも触れた。

国連調査員の Maina Kiai さんは、「今回の事件は大きな警鐘です。国家が関わっている可能性もあるでしょう。Ley 氏は最近ローカルメディアを通して、Global Witness(独立調査団体)が調査したフンセンファミリーのビジネスについても、語っていましたから」と話した。また「Ley 氏が、政府を批判する立場で活動していたこと、フンセンビジネスに関する調査内容をテレビで暴露したことを考えると、裏がある事件と見た方がいいでしょう。事件について、中立の独立団体が速攻に捜査を進めるべきです」と話した。Global Witness も、迅速な捜査を要求する内容の声明を出した。しかし、カンボジアで過去発生してきた政治的な殺人に、正義がもたらされることはほとんどなかった、とも述べている。

18. Kem Ley さん殺害の被告人、裁判へ

7/13、プノンペン市裁判所では昨日、Kem Lay さんを殺害したとみられる男性の裁判が行われた。被告人の名称と年齢は、家族が Oeut Ang44 歳だと証言しているが、裁判では、被告人が自称した”Choub Samlab”という名称と 38 歳という年齢がそのまま使われた。「家族の証言もまだ確定はしていないので、被告人が言っているものをそのまま使うことに決めました」と Ly Sophanna 検察官は話す。殺人と銃刀法違反の容疑がかかっている Ang 被告人は、カルテックスのガソリンスタンドで社会評論家の Ley さんを銃殺したとされる。また検察官は、Ang 被告人以外にも、銃を売買して関わっていたとみられる別の容疑者も逮捕している。彼の名前は明らかにされていないが、銃の売買はカンボジアで禁止されており、最大懲役 2 年の刑が科せられる。Ang 被告人は警察に対し、「お金のことでめめたので撃った」と話している。しかし、シェムリアップに暮らす Ang 被告人の妻も母も、”そんな話は聞いたことがない”、と話す。また、カンボジア救国党のサムランシー党首などは、政府が関わっているとして政府を非難し、逆に、政府に傾倒しているメディアの一部は、暗に野党を非難する姿勢をとっている。

警察のスポークスマン Kirt Chantharith さんは、「ソーシャルメディア上では、与党が怪しい、という雰囲気になっていますが、逆に野党が怪しい、という人々もいる混乱した状況です。亡くなった Ley さんのためにも、公平な裁きが下されなくてはなりません。Ang 被告人以外にも事件に関わっている者を探し出すため、全力を尽くします」と話した。昨日、オーストラリア大使館員の Angela Corcoran さんが、Ley さんの葬式に出席し追悼を行い、妻の Bou Rachana さんにも面会した。彼女は、残った自分たち家族も狙われるかもしれないから、オーストラリアに逃げたい、と話していたという。二人には 4 人の子供がおり、公式にリクエストがあれば出来る限りのサポートをしたい、と Angela さんは話した。

19. 最近の外資の進出状況

・郵船ロジ、カンボジアに冷蔵・冷凍の新倉庫＝生鮮品需要

6/21、郵船ロジスティクスは、カンボジアのプノンペン市に、冷蔵・冷凍機能を備えた同国最大級の倉庫を新設したと発表した。8月1日に稼働する。主に輸入した生鮮野菜、果物に対する国内需要の拡大に対応し、大型スーパーや卸売店、小売店へ小口で運ぶ低温物流網(コールドチェーン)を構築・運用する。

・第一生命、駐在員事務所を開設

6/25、第一生命は、カンボジアに駐在員事務所を開設したと発表した。日本の生命保険会社では初となる。市場調査などを通じ、生保市場への参入を検討していく。

- ・**ナイキが初の専門店、現地生産品も陳列**

スポーツ用品の米ナイキは、カンボジアの首都プノンペンに第1号となる専門店を開業した。プノンペン市内中心部のモニボン通りに、23 日にオープンした。スポーツシューズやウェアなど幅広い商品をそろえ、カンボジア工場で製造した縫製品も販売する。

- ・**マレーシアの小口金融アマナ進出、貧困層を支援**

マレーシアの政府系マイクロファイナンス(小口金融)機関アマナ・イクティアル・マレーシアは、カンボジアへの進出を計画している。貧困層への支援を目指す考えだ。ズビル・ビン・ハルン社長が 22 日にカンボジア労働省の幹部と会談し、事業計画を説明した。カンボジア政府も「小規模融資は経済成長に不可欠」との見解を示し、アマナの早期の進出を支援していく考えだ。

以上